

# 荻外荘旧蔵長胴太鼓



太鼓胴墨書

〔指定年月日〕 令和八年二月二五日  
〔種 別〕 指定有形文化財（歴史資料）  
〔名 称〕 荻外荘旧蔵長胴太鼓  
〔点 数〕 一点  
〔所有者等〕 杉並警察署  
〔所在地等〕 荻窪二―四三―三六（荻外荘）

指定有形文化財（歴史資料）

## 荻外荘旧蔵長胴太鼓

本資料は、昭和一五（一九四〇）年七月一九日、第二次近衛内閣組閣に際して荻外荘で行われた「荻窪会談」当日、日本太鼓工業会より近衛家に寄贈された宮本卯之助商店製のケヤキ製長胴太鼓である。

同太鼓が寄贈される以前は、拍子木を叩いて荻外荘玄関前に集まった報道陣に秘書が発表を行っていたが、拍子木では威勢に欠けるため、日本太鼓工業会から近衛家に太鼓が寄贈され、拍子木に代わり打ち鳴らされた。その様子は、昭和一五年七月二二日の東京日日新聞夕刊や、同年七月二三日放映の「日本ニュース第七号」で確認できる。

同太鼓は昭和一五年一〇月頃、杉並警察署の依頼により同署に寄贈され、近年まで杉並警察署武道場における毎朝の稽古で使用されていた。杉並警察署への寄贈経緯については、昭和三六（一九六一）年一〇月発行の『自警』（警視庁自警会発行の冊子）所収「月桂樹と尚武太鼓」に詳細が記されており、同書によると、「太鼓の寄贈を千代子夫人にお願いしたところ、快諾してもらい、その上、総理の字を太鼓の胴に刻んでおきたいとお願いしたところ、「尚武」と書いていた

だけだったので、これを複写し、太鼓の胴に刻み「尚武太鼓」と命名した」とある。

日本太鼓工業会から寄贈された本資料からは、第二次近衛内閣に対する当時の世相の期待感が窺えると共に、政治的な現場としての荻外荘を取り巻いた高揚感を今に伝える資料として貴重である。

【文化財所在地】

